

次の英文を読んで、あとの問いに答えよ。

¶ 1 The analysis of handwriting has a long history — some say it goes back to Roman times. Modern (1)graphology began early in the nineteenth century, when French churchman Jean Michon made the first graphological “catalogue” examining, for example, where letters fall on the line, their shape and the pen's pressure.

¶ 2 (A)In the case of Erik Rees, chairman of the British Institute of graphologists, his father was a semi-professional graphologist, working for the police and courts in Prague and Vienna. “He began to teach me about it when I was a child,” Rees said, “because he said it would be very useful to me. But he also told me (2)not to push it down anyone's throat in Britain — “because they haven't got to it yet'.”

¶ 3 Allan Conway, a professional graphologist for 12 years, agrees: “In France, Israel and Germany, it's big business; you can do a university course in it. But in Britain, they don't trust graphology so much. They don't like to be forced to use it.” Conway also says, “(B)Handwriting says more about you than many chosen words, simply because you cannot hide yourself in your handwriting — it's not really your hand that's writing, but your brain. (3)It's your personality frozen in ink.”

¶ 4 Despite public doubt, graphology plays a certain role in management. (C)Rees does several analyses a week. He has worked for the British intelligence services for 15 years, as well as for companies such as the watchmaker, Rotary. “We use Erik's talents for job interviews,” Michael Webber, chairman of Rotary, happily says, “We find it more useful than *psychological tests, which some people can learn to be good at. Graphology tells us about their characters, showing both weaknesses and strengths, though we accept that it is more of an art than a science and we wouldn't use it alone.”

¶ 5 “To give a full analysis of someone's character takes at least four to five hours,” says Rees. He also needs to know three things about the writer: their sex, their age and if they are left- or right-handed. Then he looks for 16 main points, including the size of the writing, the pressure, the speed, whether the line of words goes up or down, and how connected the letters are. “But there is one golden rule,” he says. “No single sign on its own must ever be taken to mean anything.”

¶ 6 The rules, according to Conway, are very simple. The baseline — whether the writing goes straight across the page or slants up or down — helps determine the writer's state of mind. A very upward baseline shows a creative and ambitious personality. A slightly downward one can show dissatisfaction or unhappiness. “(D)A sharp downward baseline usually shows serious problems or illness,” says Conway, “while a straight one is a sign of emotional balance.” An irregular baseline can mean an excitable writer with poor self-discipline.”

¶ 7 The way letters are formed and connected is also important. A writer with sharp letters, for example, is often decisive and never gives up. Round letters suggest the writer doesn't like to express emotions freely. And writing with letters “threaded” — connected together as if by a long cotton thread — can show improvisation. “(E)Such types of people with ‘threaded’ letters,” explains Conway, “rely on instinct, need freedom and use their feelings to think of new solutions and discover opportunities.”

注) *psychological tests = 心理テスト

全訳する子の為の【重要語句・重要表現】

¶ 1

- ・ analysis は「分析」。
- ・ handwriting で「手書き (の文字)、筆跡」。
- ・ some (people) say ~ で「~という人もいる」。
- ・ go back to A で「Aにさかのぼる」。
- ・ graphology は「筆跡学」だが、こんな単語誰も知らない(藪下も知らない)。これは「テーマ」で、最初は The analysis of handwriting、次にオマケの説明のダツシ (一) の中で it となり、ここで modern graphology になっている。だから「筆跡の分析」くらいの意味だろうと考えて先に進む。
- ・ churchman で「聖職者、牧師」。
- ・ catalogue は日本語化していて「カタログ」、「一覧」、「目録」。
- ・ shape も日本語化していて「シェイプアップ(shape up)」のシェイプ。意味は「形」。
- ・ pen's pressure で「筆圧」

¶ 2

- ・ in the case of A で「Aに関しては、Aの場合」
- ・ graphologist は「筆跡学者」。
- ・ semi-professional で「セミプロの」。

¶ 3

- ・ trust A で「Aを信用する」
- ・ be forced to 不定詞で「~することを押しつけられる」
- ・ 「it is A ブリブリ強調 that + 残り」は強調構文。「AはBである」と訳出して、Bを強調する。
- ・ not A but B で「AではなくB」。
- ・ personality は「個性、性格」。
- ・ frozen で「凍り付いた」。

「復活！アブラゼミ・第7回」見取図と訳出上の留意点

(A) In the case of Erik Rees, chairman of the British Institute of graphologists, his father was a semi-professional graphologist, working for the police and courts in Prague and Vienna.

In <the case> of <Erik Rees>

=<chairman> of <the British Institute of graphologists>

his father	was	a semi-professional graphologist
A	=	B

, working for the ^{police} and ^{courts} in ^{Prague} and ^{Vienna}

* 最初のコンマは同格。「Erik Rees」 = 「chairman of ~」 の関係をちゃんと訳出すること。直後に-ing が来なければ、「①文がそこで区切れるか」、「②同格で説明している」かのどちらかだから「/」で区切るか「=」でつなぐクセをつけておくこと。

* 2つめのコンマは「,-ing」で付帯状況分詞構文。「①~しながら」、「②~してそして・・・」のどちらか。ここでは②。

* work for A で「Aのために働く」→「Aで働いている・勤めている」の意味。for は「目的・対象の for」。

(A)

(B) Conway also says, "Handwriting says more about you than many chosen words, simply because you cannot hide yourself in your handwriting — it's not really your hand that's writing, but your brain."

Handwriting	says	more	than many chosen words
主	言う	例を	

about you

simply because	you	(cannot) hide	yourself	in your handwriting
	主	隠せない	何を	

not really your hand	is	writing
but your brain	=	B
A		

* say more を原級に戻すと say much. much は「多くのこと」くらいの意味の名詞であることに注意。

* 英語では人以外のものが say する。つまり新聞や看板が say する。ここでは handwriting(手書き文字)が say する。say には訳出上の工夫が必要で、新聞や看板の場合は「書いてある」と訳す。では、手書き文字は？

* chosen words は「人はする、モノは人によってされる」から、過去分詞 chosen になっている。つまり「言葉は人によって選ばれる」わけだ。訳出するときは「受け身は能動態に戻せ」だから「慎重に選んだ言葉」くらいにしてやる。

* not A but B の「not A」を強めた強調構文。「it is+ブリブリ that+残り」の it is と that を消してやるとその正体が見やすくなる。

(B)

(C) Rees does several analyses a week. (12) He has worked for the British intelligence services for 15 years, as well as for companies such as the watchmaker, Rotary.

Rees	does	several analyses	a week
主	やる	何を	

He	has worked	for the British intelligence services for 15 years
主	働いた	as well as for companies

such as the watchmaker, Rotary

* a week の a は、「毎・・・ごとに」の意味の「単位の a」

* 比較で使う接続語 than や as well as も綺麗な対称形を作り出すことに留意する。これらは決して等位接続詞ではないが、その対称形を際立たせるために、見取り図は2つの for を縦に並べた。

* A such as B は、抽象表現 A が右の B で具体化されていることに留意する。「抽象→具体」の枠組みをちゃんと頭に入れた読むべし。

* the watchmaker, Rotary のコンマは「名詞=名詞」の同格。

(C)

「復活！アブラゼミ・第7回」解答・解説

設問1 (the) analysis of handwriting

設問2 イギリス人に筆跡分析を押しつけないこと。(20字)

設問3 ・手書きには自分の性格が内在しているということ。
・手書きでは自分の性格が隠せないということ。

設問4 イ、エ

設問5 全訳例参照

【設問解説】

問1

段落冒頭のテーマ文に「analysis of handwriting」とあり、これが文章のテーマだと分かる。オマケの説明が始まるがツツ(一)の中では、テーマが代名詞化されてitになり、第2文でそれがModern graphologyと言いつけられている。言い換えると、冒頭文が歴史的な導入であり、第2文で現代の話になったと考えれば、graphologyはanalysis of handwritingであることがわかる。

問2

push A down one's throatは「Aを無理矢理人のノドに押し込む」が直訳で、「人にAを無理に押しつける」くらいの意味。でも、こんな表現を知っている子はいない。内容説明問題は「同格」か「抽象→具体」のどちらかで解く。直後にはbecause they haven't got to it yet「彼ら(イギリス人)はまだそれを理解するにいたっていないから」の「理由」はあるが、「同格」はないので、「抽象→具体」で解くのではないかと考える。つまり、not to push it down anyone's throat in Britainという抽象的表現が、どこかで具体化されているのだと考えるわけだ。同じ内容で具体的な表現を探すのだから、マーカー抽出法が効く。ここでは「否定文」であることと、固有名詞のBritain。第3段落でマーカーを探すと、in Britain, they don't trust graphology so much. They don't like to be forced to use it. (イギリスでは、筆跡学をあまり信用していない。イギリス人はそれを押しつけられるのを好まない)がヒットする。下線部が否定のことシリーズnot to ~ (～しないこと)だから、後半部分を訳せばよいと分かる。itは「筆跡の分析」で良い。

問3

内容説明問題は「同格」か「具体→抽象」のどちらかで解く。下線部は「それはインクという形で氷結させられた君の性格だ」の意味で、どう見ても「比喩」。比喩も1つの同格表現。つまり、「主張」を「比喩」表現で繰り返すことで、強調しているだけ。だから、下線部「比喩」の直前の「主張」を和訳すれば良いと分かる。つまり、「手書きは自分自身を隠すことができないので、慎重に選んだ多くの言葉よりもあなたについて多くのことを伝えてくれる」を和訳するのだけど、長すぎるので適当にまとめることになる。

問4

マーカー抽出法を使って解く。速くこの解法に慣れておくこと。

ア Graphology is well-known in Germany.

(筆跡学はドイツではよく知られている)

Graphologyは「テーマ」で、文章全体に散在するからマーカーにはならない。固有名詞Germanyは優れたマーカーになる。Germanyは第3段落の最初の文にヒットする。そこに「フランス、イスラエル、ドイツでは、それは大きな商売になる」とあるので、正解。

イ People in management don't believe so much in graphology.

(経営に携わる人々は筆跡学をあまり信用していない)

信用しているか、いないかは別にして、People in managementは必ず本文中に登場するはず。だから、これをマーカーにして本文中を探索すると、第4段落の第1文にin managementがヒットする。「大衆の疑念にもかかわらず、筆跡学は経営において何らかの役割を果たしている」とあるので、ダメ。

ウ Psychological tests sometimes can't be relied on in job interviews.

(心理テストは、就職の面接試験では信頼できないことが時々ある)

マーカーはpsychological testsとjob interviewsの名詞2つ。次は第5段落に出てくるのかなと思って、イでマーカーがヒットした文から手を抜かずに探索すること。すると、第4段落の第4文にjob interviewsが、そのすぐ後にpsychological testsがヒットする。そこに「筆跡学は、学習してうまくなる人もいる心理テストよりも有益である」とあり、心理テストはあまり当てにできないことがわかるので、正解。

エ In Webber's opinion, graphology is like mathematics with a single answer.

(ウェブバーの意見では、筆跡学は正解が1つになる数学のようなものである)

固有名詞のWeberとmathematicsの2つをマーカーにする。ウでマーカーがヒットした文の続きを検索する。すると、またまた第4段落の最後の部分でWebberは出てくるが、mathematicsは出てこない。「数学の様なもの」がないのだから多分ダメ。良く読むと「筆跡学は科学というよりはむしろ技術である」とあり、art(技術)とmathematics(数学)は別物だから、やっぱりダメだと分かる。「art=技術」はスーパー単語プリントに書いておくこと。

オ Graphology is difficult without the knowledge of the writer's sex, age and which hand they use.

(書き手の性別、年齢、利き手がわからなければ、筆跡学は難しい)

sex, ageをマーカーにする。which hand they useが「どちらの手を使うかということ」から「利き手」だとわかれば、それもマーカーにすればよい。すると、5段落の第2文に「書き手の性別、年齢、左利きか右利きかどうかを知る必要がある」とあり、逆に性別、年齢、利き手がわからなければ筆跡の鑑定は難しいことになるので、正解。

「復活！アブラゼミ・第7回」全訳例

¶ 1

手書きの分析には長い歴史があり、ローマ時代にまでさかのぼるといふ人もいる。現代の筆跡学は19世紀初頭に始まった。当時、フランス人の牧師ジーン・ミションが初めて筆跡の便覧を作った。それらは例えば文字が線上のどこに書かれるかや、文字の形・筆圧を調査するものであった。

¶ 2

(A)筆跡学者のイギリス協会の会長エリック・リースの場合、彼の父はセミプロの筆跡学者で、プラハやウィーンの警察や裁判所で働いていた。「私か子どものころ、父は筆跡学について私に教え始めました」とリースは言った。「彼によると、それは私にとっても役に立つからでした。しかし、彼はイギリスではそれを無理強いしないようにも言いました。イギリス人はまだそれを理解するにいたっていないからです」

¶ 3

12年間プロの筆跡学者を続けるアラン・コンウェイは次のように同意している。「フランス、イスラエル、ドイツでは、筆跡学は大きなビジネスだ。大学の講座にすることもできる。しかし、イギリスでは筆跡学をあまり信用していない。(B)イギリス人はそれを押しつけられるのを好まない」、(B)コンウェイはまたこうも言っている。「単に手書きは自分自身を隠すことができないので、慎重に選んだ多くの言葉よりもあなたについて多くのことを伝えてくれる。書いているのはあなたの手ではなく脳なのだ。それはインクに凍りついたあなたの性格なのだ」

¶ 4

大衆の疑念にもかかわらず、筆跡学は経営においてある役割を果たしている。(C)リースは週にいくつかの分析を行う。彼はロータリーという時計店のような会社だけではなく、イギリスの情報機関でも15年間働いている。「我々はリックの才能を就職の面接試験で利用しています」ロータリーの会長、マイケル・ウェバーは満足そうに言う。「学習してうまくなれる人もいる心理テストよりもより有益なのです。筆跡学は相手の性格を我々に伝えてくれ、短所も長所も示してくれます。それが科学というよりはむしろ技術であることはわかりますし、単独でそれを用いることはしませんかね」

¶ 5

「誰かの性格を十分に分析するには少なくとも4～5時間かかります」とリースは言う。彼はまた、書き手について三つのことを知る必要がある。性別、年齢、左利きか右利きかどうかである。それから彼は書体の大きさ、筆圧、速度、文字列の上がり下がり、文字のつながり方を含む16の主な点を求める。「しやし黄金律があるので」と彼は言う。「単独のしるしだけでは決して何かを意味することはできないのです」

¶ 6

コンウェイによると、規則はとても単純だ。基準線 — 筆跡がページを真っ直ぐに横切っているか、斜めに上下しているか — が、書き手の心理状態を決定するのに手を貸してくれる。極めて上向きの基準線は創造的で野心的な性格を表す。わずかに下向きの基準線は不平や不満を示すことがある。(D)「急激な下向きの基準線はふつう深刻な問題や病を表す」とコンウェイは言う。「一方、まっすぐな基準線は感情が落ち着いているしるしである」不規則な基準線は、自己修養に乏しい興奮しやすい書き手を意味することがある。

¶ 7

文字が形成され、接続される方法もまた重要だ。例えば、鋭い文字の書き手は断固とした意志の持ち主であり、決してあきらめないことが多い。丸い文字は、書き手が自由に感情を表現するのを好まないことを示す。また、まるで長い錦の糸でつながり合わされたような文字の筆跡は即興を示すことがある。(E)「糸でつながり合わされたような文字を書く人々は、本能に依存し、自由を求め、新しい解決策を考えたり機会を見いだしたりするのに感情を用いる」とコンウェイは説明している。